

コ ロ ナ
インフル

同時検査

鹿大発ベンチャー、装置開発へ

鹿児島大学発のベンチャー企業スディックスバイオテック

田泰生鹿児島大学大学院理工学研究科教授(糖鎖生物化学)が開発した「糖鎖ナノ粒子法」

採取時に飛沫を浴びる危険を減らせる」と話している。

(鹿児島市)は、機械メーカー(鹿谷工業(金沢市))と共同で、唾液から新型コロナウイルスとインフルエンザウイルスA、B型を同時に、約20分と短時間で検査できるPCR検査装置を開発する。唾液でインフルエンザウイルスを検査できるのは国内初という。

使った新型コロナウイルスとインフルエンザの迅速検査法をそれぞれ確立済み。同時検査にも同じ方法を用いてウイルスの遺伝子を濃縮。波長の異なる三つの光を照射し、それぞれ陽性か陰性かを同時に判定する。

年内発売目指す

隅田教授は「症状が似ているので同時に検査できれば対応しやすくなる。唾液は患者自身で採取可能で、医療者が鼻の粘膜

が細胞表面の糖鎖に付着して感染する仕組みを利用。糖鎖を固定したナノ粒子にウイルスを付着させ、磁石で集めて濃縮する。遠心分離機などを使って濃縮する従来法で1時間以上かかった前処理作業が約3分に短縮され、20分程度で結果が出る。

1台で同時に8検体を検査でき、個人医院に置けるよう小型化を図る。年内の販売開始を目指す。7日、金沢市で発表した。スディックス社は、代表の隅

田教授は「症状が似ているので同時に検査できれば対応しやすくなる。唾液は患者自身で採取可能で、医療者が鼻の粘膜

を検出できるほか、感染性のあるウイルスだけが集まるため、偽陽性を避けられるなど利点が多いという。

(園田尚志)